

- 日産自動車、「キックス」のチャイルドシート固定用ISOFIXブラケットに不具合があるとしてリコール 20年7月30日～21年9月7日に生産した3万5111台
後席右座席中央側のチャイルドシート固定用ISOFIXロアアンカレッジのブラケットにおいて、成形型が不適切なため、ブラケット嵌合部寸法が規定より狭くなることがあり、最悪の場合チャイルドシートを取り付けられない恐れがある。
- アウディジャパン、「Q3 35 TDIクワトロ」「RS Q3」の燃料メーターが誤表示となる恐れがあるとしてリコール
20年10月13日～21年3月19日に輸入した1323台
第二燃料タンクに取り付けられている燃料ゲージセンサー付きサクシオンジェットポンプにおいて、燃料ラインと燃料ゲージセンサーの間隔が不適切なため、燃料ゲージセンサーが燃料ラインに引っかかることがある。そのため、実際の燃料量と燃料計の指示値が一致せず、燃料が多く表示され、燃料が多く表示され、そのままの状態で行くと、燃料切れにより走行不能となる恐れがある。
- トヨタ自動車、「クラウン」のクォータウィンドウガラスについて、モールディングが脱落する恐れがあるとしてリコール
18年5月16日～20年4月20日に生産した4万4796台。19年7月、18年5月16日～8月10日に生産された9688台を対象にリコールを届け出たが、新たに原因が判明したため、対象を拡大して再度リコールを届け出た。
後席ドア後部のクォータウィンドウガラスのモールディングにおいて、取付構造が不適切なため、冷熱の繰返しで取付部が劣化して剥がれることがある。そのため、浮きや異音が発生し、最悪の場合、モールディングが脱落する恐れがある。
- いすゞ自動車、「ギガ」「フォワード」「エルフ」・UDトラックS/OEM「コンドル」の排出ガス飛散防止装置(差圧センサ)に不具合があるとしてリコール
17年5月25日～19年10月28日に生産した1万4159台
差圧センサに組み付ける差圧ホースの材質が不適切なため、ホースから放出されるヨウ素により差圧センサの回路が腐食し断線するものがある。そのため、エンジン警告灯が点灯し、EGRバルブの制御を停止することにより排出ガスが基準値を満足しなくなる恐れがある。
- 日産自動車、「エクストレイル」ハイブリッド車のエンジンルームハーネスに不具合があるとしてリコール
15年4月20日～20年8月24日に生産した6万4116台
エンジンルームハーネスの配線が不適切なため、エンジン制御用コントロールユニットを固定しているブラケットとの隙が不足しているものがある。そのため、ハーネスがブラケットに干渉し電線の被覆が削られて短絡し、最悪の場合、走行中にエンジンが停止し、その後再始動できなくなる恐れがある。
- いすゞ自動車、「ギガ」のターボチャージャに不具合があるとしてリコール 10年5月27日～17年3月31日に生産した3万8000台
ターボチャージャのタービンインペラの二次共振時の最大応力部に微小空孔が存在した場合、微小空孔を起点とした疲労破壊によりタービンインペラが破損して異音、白煙排出、出力不足等が発生し、エンジン警告灯が点灯することがある。そのため、そのままの状態で使用を続けると、ターボチャージャに異常振動が発生し、ターボチャージャ給油パイプが疲労により亀裂してオイルが漏れ、高温部に付着して火災に至る恐れがある。
- メルセデスベンツ、AMG「G63」の自動車検査書(車検証)の騒音測定回転数を修正 対象は約1700台
G63の車検証の備考欄に記載されている騒音測定回転数(近接排気騒音を測定する際のエンジン回転数)が「4500rpm」となっているが正しくは「4000rpm」で、誤りがあることが判明した。誤りによる騒音悪化などの問題はないものの、次回車検の際に騒音測定回転数を訂正した車検証を交付するとしている。